

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|-------------|---|--|-----|--|---------|--|-----|--|---------|--|-----|--|-----|--|
| 事業所名 | | エンタメ療育スタジオRough&Diamonds鹿沼 | | | | 支援プログラム | | 作成日 | | 2025 年 | | 2 月 | | 1 日 | |
| 法人(事業所)理念 | | 向き不向きではなく、前向きに | | | | | | | | | | | | | |
| 支援方針 | | 日々のレッスンを通して指導員やお友達との関わり方やスムーズな集団生活を体験的に学べるようにスモールステップで支援をします。まずは本児の自尊心と自己肯定感を高め、いける場になる事を目指します。また、事業所内での発表会の開催や地域社会で行われるイベントにも積極的に参加することで障害の有無にかかわらず全ての児童が共に成長できるよう包摂(インクルージョン)の推進に努めて参ります。 | | | | | | | | | | | | | |
| 営業時間 | | 10 時 | | 0 分 | | 18 時 | | 0 分 | | 送迎実施の有無 | | あり | | なし | |
| | | 支 援 内 容 | | | | | | | | | | | | | |
| 本人支援 | 健康・生活 | ダンスレッスンを通し楽しみながら身体の使い方を習得し、基礎体力をつけ規則的な生活のサイクルを築き、運動すること・身体を動かすことが好きになれるように支援すること。また、心身の健康を維持し、心と身体を健康に保てるようアプローチしていきます。また、通所曜日と時間を定期的に設定することで生活リズムの安定を図り、レッスン後のフィードバックを保護者様へ毎回行うことで、子どもの心身の状態や変化にすぐに気づくことのできる関係性を構築していきます。 | | | | | | | | | | | | | |
| | 運動・感覚 | ダンスや演劇メニューを通して発達の基盤である「模倣する」働きを向上を図ることでボディイメージを養い、身体を動かす楽しみを知ることで自信につなげ「できる」の意欲と「できた」の成功体験を重ね、園や学校生活を有意義に過ごせるようアプローチしていきます。また、レッスンを通して体幹を鍛えバランス感覚を養い、姿勢保持・集中力・記憶力の向上を目指す。腕・肘・手首・指先の分化を促しボール投げや縄跳びなどの協調運動や、文字書きなどの巧緻性を養うこと、体育の授業や板書など学校生活でも汎化していけるように個別に合わせたプログラムを構築していきます。 | | | | | | | | | | | | | |
| | 認知・行動 | 園や学校での困り事を抽出しレッスンで疑似体験することで他者との距離感やコミュニケーションを体験的に学び、集団生活の場で汎化していけるようアプローチしていきます。具体的には絵カードやマグネットを使用し、量・大きさ・長さ・高さなどの基礎概念の形成と、順番・時間など集団生活に必要なルールの理解や適切な行動、学習への意欲獲得を目指します。また、演劇メニューを通して自分の意見を伝える、他者の意見を受け入れる場を体験的に創出することで自ら気持ちのコントロールを行い、ルールやマナーに沿って円滑なコミュニケーションがとれた成功体験を重ねていけるように支援します。他にも就学への準備(行動観察に基づく課題設定)、集団生活を意識した課題(座る・見る・待つ・手を上げる・斉指示の理解など)そのほか学校での課題をスモールステップで取り入れていき「楽しい」と感じながら取り組めるように創意工夫していきます。 | | | | | | | | | | | | | |
| | 言語コミュニケーション | 演劇メニューを通し言葉以外でのコミュニケーションの場も創出し、気持ちや意見を共有することや、共感し抑圧されない感情や意志の表出などを促していけるようアプローチしていきます。具体的には子どもの「○○したい!」という気持ちを大切に、言葉で伝えるなど、適切な表出を促し日常生活で発生しうる事案を「演じる」中で他者の感情理解や、適切なコミュニケーション方法の獲得を図ります。また、演じている場面を客観的に見ることで、感情や適切なコミュニケーションへの理解を深められるように支援していきます。 | | | | | | | | | | | | | |
| | 人間関係社会性 | 子どもとの信頼関係構築を第一として関わり、小集団レッスンを通して時間や他者を意識し行動できるようサポートすることで、自発的に行動できるようアプローチしていきます。指導員の豊かな表現力とダンス・演劇・用具を活用したプログラムで子ども自身の「楽しい!」を引き出すことで主体的な取り組みを促し子どもの感情をまずは受容して共感することで安心して活動できる環境づくりを行います。その上で指導者が意図的に多様な関わり(指導する・一緒に遊ぶ)を行っていくことで、メリハリを持った関係性を構築していけるように支援していきます。具体的には「できなかったね」ではなく「ここができたね」と必ず成功体験につなげられるようスモールステップの視点を持って支援を行うことで自己固定感の向上を図れるように配慮していきます。 | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|------------------|--|----------------|--|
| <p>家族支援</p> | <p>電話やメール、LINEなどを用いていつでも悩みや不安感を気軽に相談できる環境を設定し、家や園、学校での困りごとを日々ヒヤリングし柔軟にレッスンに取り入れられる開かれた療育支援を実施しています。また、必要に応じてきょうだいの関わりも設けながら、一緒にレッスンに参加出来る環境づくりなども設け「お子様」に対象を絞るのではなく「家族」に向けた支援環境を整えています。</p> | <p>移行支援</p> | <p>園、学校、他事業所、医療機関等との情報共有、連携を密に行い多方面から情報を得ることで、本児を多角的な視点で捉えることができより包括な支援を実施します。また必要に応じて就学先への連携や情報共有を行なっています。さらにはイベント時など保護者様同士のコミュニケーションの機会を創出することで、それぞれのライフステージの経験談や悩みを共有できるつながりを構築しています。</p> |
| <p>地域支援・地域連携</p> | <p>地域との連携・交流を積極的に行い、限られた場所だけではなく広い社会と接する場を提供し、自分らしくいられる場所・自分の居場所を増やせるように日々取り組んでいます。具体的には保育施設や医療機関、センターなどの研修や連絡会への積極的な参加、自治体主催のイベントへの出演などを行っています。</p> | <p>職員の質の向上</p> | <p>社内研修体制として知識獲得のための座学研修、実際に支援の場を想定したロールプレイング研修、療育施設に必要なマニュアル研修、定期的な社外研修を日々の業務に落とし込み、圧倒的に楽しいプログラム提供を行うためのコミュニケーションや表現の技術を身につけられるように取り組んでいます。また、レッスン後のフィードバックも確実に実施し、対象児の困り感や支援方法を確立し次のレッスンで実践できるようにサポート体制を構築しています。</p> |
| <p>主な行事等</p> | <p>年2回成果発表会を実施し、子どもたちの日々の練習の成果を発表する場を提供し自己肯定感を高められるとともに成功体験を重ねられる環境を整えています。また、地域の活動やイベントにも積極的に参加し、子どもたちが社会と交流できる場を設けられるように取り組んでいます。そして、同じ悩みを持つ保護者様同士話ができる場を提供することで保護者の一人ではないということを感じてもらい、少しでも心の重荷が軽くできるよう懇親会等も定期的に開催しています。</p> | | |